

東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年11月 東臼杵農林振興局
(東臼杵南部農業改良普及センター)



東臼杵南部農業改良普及センター
ホームページ

目次

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)

- 1 【全国】門川町の横井嘉次郎氏が緑白綬有功章を受章
- 2 【全域】農業生産現場での生産性向上研修を実施
- 3 【全域】女性農林漁業者ネットワーク交流会が開催

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 3～4)

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]
[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、ヘベス、スイートペッパー 等]

- 1 【日向市・門川町】農業人材ベストミックス研修（沿海地域）を実施
- 2 【門川町・美郷町】地域面談コンサル支援
- 3 【日向市】就農希望者が来県 日向市での相談対応を実施
- 4 【日向市】担い手支援を前進 日向市担い手担当者会議を開催
- 5 【全域】みやざき就農応援相談会2025開催
- 6 【日向市・門川町】JAみやざき日向地区本部平兵衛酢部会露地ヘベス実績検討会が開催
- 7 【美郷町・日向市】美郷町さいごう完熟金柑部会の園地巡回を実施
- 8 【管外】美郷町さいごう完熟金柑部会が視察研修を実施

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 5～7)

- 1 【門川町・美郷町】SAP活動を支援
- 2 【椎葉村】放牧草地における暖地型牧草の適応性試験調査
- 3 【美郷町】イタリアンライグラス奨励品種選定試験展示ほの発芽調査
- 4 【美郷町】大規模水稻生産者との意見交換会を開催
- 5 【日向市・諸塙村・美郷町】ほおずきの病害虫防除について指導
- 6 【全域】第18回JAみやざき日向シキミ生産者大会が開催
- 7 【日向市】促成きゅうりのかん水量について検討
- 8 【椎葉村】平家まつり農産物品評会で審査を実施
- 9 【椎葉村】ラナンキュラス現地検討会を開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 【全国】門川町の横井嘉次郎氏が緑白綬有功章を受章

12日、東京都で公益社団法人大日本農会（総裁 秋篠宮皇嗣殿下）主催の農事功績者表彰式が開催され、本県からは、門川町庵川の横井嘉次郎氏が緑白綬有功章を受章しました。

横井氏は、冬春ミニトマトの大規模経営体として高単収を実現し、新規就農者の研修受入や農地確保など、地域農業の維持・発展・活性化への多大なる貢献により今回の受章となりました。

また、19日には県庁を訪問し、知事や農政水産部各課へ受章報告を行いました。横井氏からは「今回の受章は、地域や関係者の皆さんのおかげであり、今後も皆さんと一緒に頑張っていきたい」と感謝と抱負が述べられました。



【受章者夫妻】

2 【全域】農業生産現場での生産性向上研修を実施

18日に、「農業生産現場での生産性向上研修」を開催し、トヨタ自動車株式会社新事業推進部アグリバイオ事業室現場改善グループの山形氏を講師に、研修会（JA日向地区本部）と、現地研修（JAファームひゅうがトレーニングセンター）を行いました。

研修会は本会場のほか、県内11か所にサテライト会場が設けられ、農業者27名、関係機関86名の出席がありました。

研修会では、基本となる整理整頓、徹底的なムダの排除による作業性改善について、事例を踏まえた説明が行われ、カイゼンの重要性について学びました。

現地研修では、作業場の整理整頓状況の確認や、収穫コンテナの入れ替え、危険か所の共有など、カイゼンについて具体的に学ぶことができました。



【農業生産現場での生産性向上研修】

3 【全域】女性農林漁業者ネットワーク交流会が開催

17日、宮崎市で女性農林漁業者ネットワーク交流会が開催され、日向・東臼杵農山村女性会議から6名と関係者3名が参加しました。

午前の部では、宮崎県農山村女性会議を構成する6団体から、農業・酪農・漁業・林業など多岐にわたる活動発表が行われました。午後の部では、業種の異なる女性リーダーや関係者による意見交換が行われ、多様な視点から活発な議論が交わされました。

参加者からは、今後もこのような交流会を続けたいとの意見があり、関係者と連携して継続的な支援に努めていきます。



【意見交換会】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ニトト、ほうれんそう(椎葉)、ヘベス、スイ-トピー 等]

1 【日向市・門川町】農業人材ベストミックス研修（沿海地域）を実施

4日、門川町役場で、労働力確保の課題解決に向け「外国人材」や「農福連携」など多様な人材の活用についての研修会を開催し、農業者9名、関係者44名の参加がありました。

研修会では、10月開催の入郷地域での研修と同様、宮崎県担い手農地対策課からの情報提供、また、人材派遣会社から「外国人材活用」、福祉事業所から「障がい者就労支援」について紹介いただきました。更に、2名の農業者から、外国人材、障がい者雇用に関する事例発表があり、労働力確保に向けた学びの場となりました。

今回の研修が、沿海地域における労働力不足解消の一助となることを期待します。



【農業人材ベストミックス研修】

2 【門川町・美郷町】地域面談コンサル支援

10日に、JA門川支店で肉用牛繁殖経営体、20日に、JA西郷支店でミニトマト経営体への地域面談コンサルを行いました。

それぞれの経営主に現状と課題について確認し、管理面および経営面における課題を明らかにし、今後の課題解決に向けた具体的な対策について、意見交換を行いました。

生産コストが上昇する厳しい情勢ですが、経営改善に向け所得確保のための戦略を検討する有意義な場となりました。



【地域コンサル】

3 【日向市】就農希望者が来県 日向市での相談対応を実施

25日、日向市で就農相談が1件あり、市担当者と連携して対応しました。

相談者は日向市への移住を前提に農業を始めたい意向で、情報収集のため来県されています。

現時点では希望品目や将来の所得見通しが明確でなかったため、相談者の考えが整理できるよう、地域の農業情勢や研修受入体制等について説明し、改めて連絡をいただくこととなりました。

今後も就農希望者の状況に応じた丁寧な説明や支援が行えるよう、関係機関と連携しながら就農に向けた取組を進めていきます。

4 【日向市】担い手支援を前進 日向市担い手担当者会議を開催

28日、日向市役所で、日向地域営農推進連絡会議の担い手担当者会議が開催され、関係者6名が出席しました。

本会議は、日向地域の担い手支援に関する担当者レベルでの情報共有と協議を行う場であり、日向市での開催は本年度3回目となります。

会議では、市から就農相談の状況や新規就農者に関する情報共有が行われ、今後の支援方針について意見交換を実施しました。また、市の推進品目の整理や経営モデル作成について協議し、本年度は2品目のモデル化に取り組むことを確認しました。

引き続き、定期的な会議開催を通じて、新規就農者支援および支援体制の充実に努めています。

5 【全域】みやざき就農応援相談会2025開催

9日、宮崎市において宮崎県農業振興公社主催の「みやざき就農応援相談会2025」が開催され、市町村、JA、県、関係団体など117名が参加しました。管内からは日向市および美郷町がJA日向地区本部と合同でブースを設置し、普及センターも参加しました。

全体の相談件数は49件で、このうち管内ブースには日向市・美郷町それぞれ1件ずつ、計2件の相談が寄せられました。日向市の相談者は本格的な就農希望者、美郷町の相談者は学生で、将来的に就農を検討しており、地域で就農可能な品目や事業内容の説明に加え、現地見学の提案など具体的な情報を提供しました。

例年に比べ来場者は少ない結果となりましたが、引き続き関係機関と連携し、就農希望者の掘り起こしと受入体制の強化に努めています。



【就農相談会】

6 【日向市・門川町】JAみやざき日向地区本部平兵衛酢部会露地へべす実績検討会が開催

25日、JA日向地区本部で生産者26名、関係者3名が出席して、JAみやざき日向地区本部平兵衛酢部会の露地へべす実績検討会が行われました。

JA担当者から令和7年度の販売実績について説明が行われました。今年の実績は、全体の出荷量が約83トン（前年比164%）、販売金額は約4,400万円（前年比155%）となり、直近3か年間では最も多い結果となりました。

普及センターからは、今作の開花から収穫時期までの気象の推移を踏まえ、着花・着果、病害虫の発生状況等を考察し、夏秋梢の多発生や、夏場の多雨の影響によるかいよう病の発生で、加工仕向けが増加したこと等から、来作に向けた夏秋梢除去、越冬病害虫防除等の重要性について指導しました。



【へべす実績検討会】

7 【美郷町・日向市】美郷町さいごう完熟金柑部会の園地巡回を実施

10日および13日に、関係者4名が参加し、部会員全30戸の個別巡回を行いました。このうち、生産者24名に対しては直接園地の状況をみながら、これまでの管理状況を聞き取り、今後の管理について指導を行いました。

今年は一部の園地で初期に生理落果が見られたものの、全体的には昨年と比べて着果性が良く、順調に肥大しています。

なお、今回は美郷町での就農を目指し、10月から果樹における地域おこし協力隊として勤務する方も同行しました。園地毎の樹形、着果性、温度・水管理の状況等を確認しながら、現場の生産者と栽培管理などについて意見交換をする貴重な機会となりました。



【着果状況の確認と管理助言】

8 【管外】美郷町さいごう完熟金柑部会が視察研修を実施

5日、美郷町さいごう完熟金柑部会の視察研修が串間市大東、高岡町で実施され、美郷町の生産者19名、関係者4名（うち地域おこし協力隊1名）が参加しました。

今年は前年よりも着果量が多い傾向にあり、視察園では大きな1～2番果がびっしり着果している状況をみて、参加者からは、活発な質問がある等、刺激を受けたようでした。1番果の着果を安定させるには開花期から幼果期の温度・水管理・葉面散布等が重要であることが改めて認識され、有意義な研修になりました。



【きんかん視察研修】

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 【門川町・美郷町】SAP活動を支援

5日および13日に、門川町SAP会員、美郷町SAP会員による活動がそれぞれ実施されました。

5日の門川町SAP活動では、SAP会員2名と協力者2名により、小学生を対象とした大根の間引き体験が行われました。昨年度に続く取組で、会員による丁寧でわかりやすい説明のもと、児童らは積極的に作業に取り組んでいました。収穫後は、近隣住民や保護者を招いて販売会を開催する予定です。

13日の美郷町SAP活動では、日向市でヒュウガトウキの栽培・加工に取り組む生産者を講師に、研修会が実施されました。中山間地域における遊休農地活用の可能性を学ぶ機会となり、会員からは、来年度に試作の意向が聞かれました。その後、門川町SAP会員の施設野菜ハウスを視察し、異なる作目の栽培技術や販売方法への理解を深めることに繋がりました。



【美郷町SAP研修会】

2 【椎葉村】放牧草地における暖地型牧草の適応性試験調査

6日、椎葉村の肉用牛繁殖農家の放牧草地で試験中の暖地型牧草混播種の3種（バヒアグラス、ローズグラス、センチピードグラス）の生育調査を関係者9名で実施しました。

本試験は、自給飼料の確保に向け、管内でも寒さが特に厳しい椎葉村において暖地型牧草の導入の可能性を確認する試験であり、7月8日に播種を行いました。

調査の結果、草丈はローズグラス、バヒアグラス、センチピードグラスの順に高く、3種とも夏場の生育は問題ないことが確認できました。

今後、栄養成分分析や、越冬の状況とその後の生育を確認することで、椎葉村における暖地型牧草の適応性を検討していきます。



【播種121日後の牧草生育調査】

3 【美郷町】イタリアンライグラス奨励品種選定試験展示ほの発芽調査

11日、美郷町西郷に設置したイタリアンライグラスの奨励品種選定試験展示ほ場の発芽調査を行いました。

10月27日に播種した3品種（ワセパワー、ワセフドウ、タチュウカ）とも、発芽揃いは良好で品種間に差は見られていません。

今後も、生育状況の確認を定期的に実施し、地域での適応性を確認していきます。



【イタリアンライグラス
奨励品種展示ほ発芽調査】

4 【美郷町】大規模水稻生産者との意見交換会を開催

25日に美郷町役場で町内の大規模水稻生産者8名と関係者5名が参加し、意見交換会を行いました。今後さらに耕作者が減少し、委託の増加が見込まれる中、現在の水田の担い手である大規模生産者が抱える課題の共有や、生産者同士の連携を模索することを目的に開催しました。

会議では、畦草刈りや用水路の清掃補修等の労力削減が共通の課題として挙げられるとともに、年々水田・水路の管理に参画する人員が減る中であぜや用水路の改修の合意形成が困難になる懸念があること、集落協定の活動との連携がますます大事になることなど、活発な意見交換がなされました。

今回出された意見は関係者間で共有するとともに、解決に向けた支援や生産者間の連携強化を模索していきます。

5 【日向市・諸塙村・美郷町】ほおづきの病害虫防除について指導

18日、JA西郷支店でJAみやざき日向地区本部ほおづき部会実績検討会が行われ、生産者13名、関係者10名が出席しました。

JA本店販売流通課から令和7年度の販売実績の説明が行われ、ほおづきが夏の風物詩として親しまれていることや今後も需要が見込まれることを再認識しました。

また、今回は総合農業試験場から専技センター長を講師に招き、病害虫対策について講習を行いました。来作に向けて適正な施肥が基本となることや、害虫の生態を把握し効果的なタイミングでの防除が重要であることを学び、生産者からも非常に良い研修であったとの声が聞かれました。

来作に向けて、施肥設計やハウス内の温度管理、栽培暦の見直しを関係者と協力して行っています。



【ほおづき実績検討会】

6 【全域】第18回JAみやざき日向シキミ生産者大会が開催

26日、美郷町ニューホープセンターで第18回JAみやざき日向シキミ生産者大会が開催され、生産者38名、関係者27名が参加しました。

前日25日に関係者でシキミの品評会を実施し、全16点の出品から金賞、銀賞、優秀賞を8点選出しており、表彰が行われました。

基調講演は「持続可能なシキミ産地を実現するために」と題して、(株)ケミストリーの村上代表取締役から事業継承についてお話をいただきました。高齢化が進む中、事業承継は産地が一体となって取り組む課題であることを生産者も改めて確認できたようです。

普及センターからはシキミ立枯症に関する取組報告と今後の予定について情報提供を行いました。今後も関係者と協力し、対策の提案を行っていきます。



【第18回シキミ生産者大会】

7 【日向市】促成きゅうりのかん水量について検討

10日、管内のきゅうり生産者2名が参加している「みやざきデジタル施設園芸産地構築プロジェクト」の地域ワーキンググループが開催され、生産者6名と関係者3名の出席のもと、11月のかん水量および温度管理について検討しました。

10月24日に実施した各生産者の圃場におけるかん水量調査を踏まえ、1トンあたりのかん水時間を把握した上で、今後のかん水量の増加方法やかん水時間について意見交換が行われました。

また、11月に入りハウス内気温の日較差が大きくなっているため、結露や温度ムラによる病害の発生を抑制するための管理について、JAみやざき本店主管より助言をいただきました。

引き続き、ハウス内環境のモニタリングを行いながら、収量向上につながる管理改善の提案を進めていきます。



【現地検討会】

8 【椎葉村】平家まつり農産物品評会で審査を実施

7日、平家まつり農産物品評会審査が開催され、駐在と普及センターの職員3名で審査を行いました。前回開催の令和5年度より出品数は多くなり、野菜や花き、果物など多種多様な品目86点が出品されました。各部門毎に、村の推進品目であるほうれんそうやミニトマトの他、さといも、シキミ、飼料カボチャを出品した5名を優等受賞としましたが、それぞれの出品物も日頃の努力が垣間見れる甲乙つけがたいものでした。

平家まつり当日には多くの観光客の目にとまり、椎葉の農産物のPRにつながりました。



【椎葉で育まれた農産物を審査】

9 【椎葉村】ラナンキュラス現地検討会を開催

17日に、ラナンキュラスの現地検討会を開催し、椎葉村・諸塙村・美郷町の生産者5名と関係者6名が参加し、椎葉村内の3ほ場を巡回しました。

現地では、園主からの状況説明の後、栽培状況を見ながら活発な意見交換が行われ、遠距離の生産者がお互いから学ぶ良い機会となりました。

また、総合農業試験場の花き部長や花き専技から具体的なアドバイスを受けることで、今後の栽培管理改善のヒントを参加者全員で確認することができました。



【ラナンキュラス現地検討会】